

# ピスガからの風

## 創業25周年 記念号

# 第53号

2020年10月

社会福祉法人 近江ちいろば会

ピスガこうせい 〒520-3242 滋賀県湖南市菩提寺327-4

TEL.0748-74-3900(代表)

FAX.0748-74-3910

<https://chiiroba.jp/>

### 理事長挨拶

理事長 森口 茂

## 創業25周年を振り返り



創業25周年を多くの地域・行政・ボランティアの方々のご支援で迎えることができ感謝申し上げます。それとともに、日々理念の基、誠実な働きで近江ちいろば会を支えてくれている多くの職員に心より感謝をいたしております。大きな時代の節目です。歴史を振り返り①創業の精神②経営体質について③今後の展望についてお伝えしたいと思います。

### ○創業の精神

創業者、後宮俊夫氏(元世光教会牧師)が、教会の老婦人たちの生活をどのように守っていけばよいかを考えたのが発端と聞いております。当時、老人福祉政策は措置による特養への入所が主流でした。比較的自分の事ができる方々がプライバシーが守られ安心して住まえる施設はありませんでした。そうしているうちに高齢者保健福祉推進十か年戦略の中に新しくケアハウスが設けられました。まだまだそのような計画をすんでやる法人はありませんでしたが、募金で資金を集め、土地を確保し、町や県の承認を得てきたのです。人が人生の最終をどのように過ごすことが望ましいのかを先進的に考え創業されたことを忘れてはなりません。

近江ちいろば会は、「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」の理念をバックボーンとして、ますます少子高齢化が進む時代に、住民の皆様が望まれる暮らしを少しでも実現できるように支援をしてまいりたいと願っています。

### ○経営体質

介護保険導入後、従来の受け身の経営体質の変革が求められていました。

現在は、下記の三つの点が改善され経営体質も強化され、地域の方々に貢献できる法人になりつつあります。

一つは資金の大切さです。借入れが多く金利の返済のために経営が前向きになりませんでした。

二つ目は、事業所別縦割りの考えを法人一体に、全体最適を考える組織を創ることです。縦割りの時代は相乗効果が発揮できていませんでした。

最後は、計画的に物事を進める事です。目指すものがあってこそ、介護の質の向上が図れることに繋がるのです。

### ○今後の展望

現在は、在宅を中心に19の事業を展開しております。多様な事業で幅広くニーズに適用できているのではないかと思います。今後は、小規模多機能型居宅介護や訪問看護・リハビリテーションのサテライトの展開も検討していく予定です。

団塊の世代が75歳を迎える2025年に向けて、介護予防活動や住民のふれあい活動に力を入れていかなければなりません。地域住民の方々がお元気で過ごしになられるためには、予防活動・ふれあい活動が必要です。

どなたも、できるだけ元気に、年を重ねても地域社会で暮らしたいと願っておられます。

近江ちいろば会としては、気軽に集まり、話し、楽しく体を動かせるようなことを通して、地域の皆様がお元気にお過ごしになられるように貢献できないかと思っております。下記の図は国の総合事業の制度ですが、それに加えて気軽に利用できる「社交場」のようなものが地域に根付けば理想です。

これから、地域の皆様と共に、近江ちいろば会は、より住みやすい地域創りに貢献してまいりたいと願っています。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい  
**OMI CHIROBAKAI**  
社会福祉法人 近江ちいろば会

# 地域包括ケアシステム実現に向けて

近江ちいろば会では、地域ケアシステム実現に向けて、在宅で生活が継続できるように多様なサービスを提供しています。今後は、介護予防、リハビリテーションなどを強化するとともに訪問看護、小規模多機能のサテライト開設に力を入れていきたいと思っております。又、他の社会福祉法人と連携強化を行い地域社会に広く貢献してまいります。

## (福) 近江ちいろば会の事業体系

－地域での暮らしを支え続ける介護・医療サービスの提供－

### 地域に必要とされる多様な事業を展開

街なか、小規模でぬくもりのある 施設中心

湖南省  
エリア

ぼだいじ訪問看護ステーション  
デイサービスセンター虹  
ぼだいじ居宅介護支援センター  
(福) 近江ちいろば会法人本部

1995年



ケアハウス ビスガこうせい

2012年



甲賀市水口町  
エリア  
みなくちみんなの家  
(グループホーム、デイサービス、ケアプランセンター)

2002年



グループホームぼだいじ  
建築家 外山義 京都大学元教授監修



2007年



認知症対応型中央デイサービスセンターしんあい  
若年性認知症対応サービス

2011年



小規模多機能型居宅介護事業所  
ぼだいじみんなの家

2016年



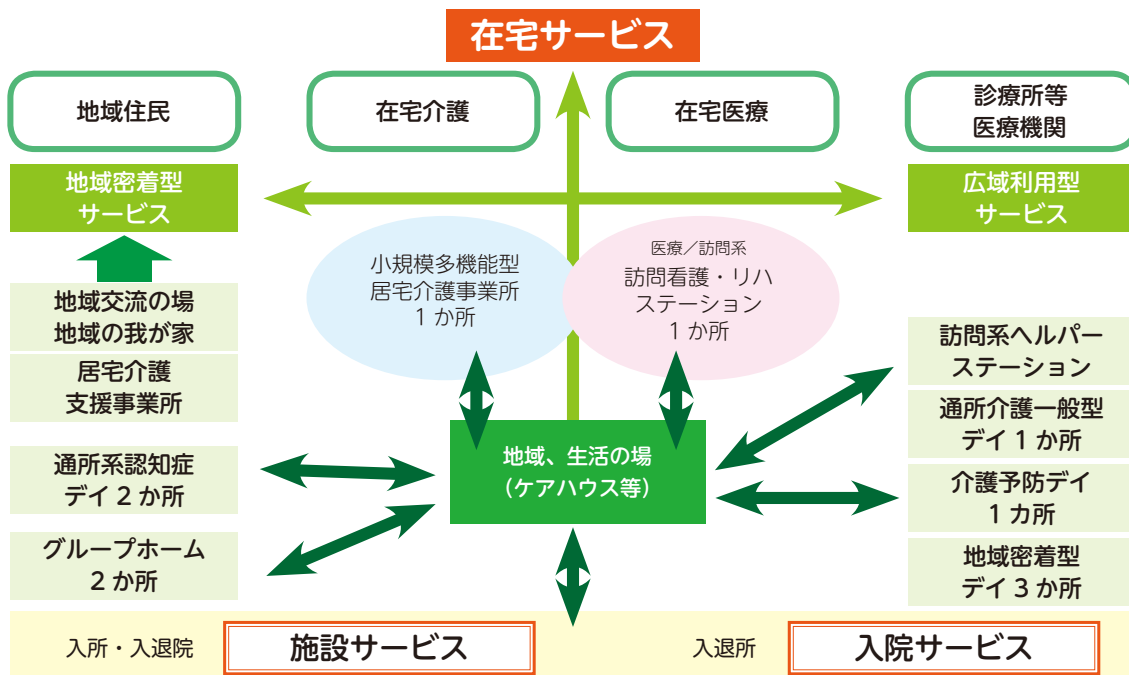
地域密着型デイサービス  
デイケアの家おしどり、ゆめとま  
ふれあいの家



2015年



認知症対応型デイサービスセンターいこい  
ぼだいじホームヘルパーステーション  
地域交流スペース「地域の我が家」  
複合型事業所



# 25周年に寄せて、創設時・困難時 お世話になった方々からのメッセージ



元理事長・現評議員  
日本キリスト教団  
草津教会  
奈良 警夫 氏

「近江ちいろば会」が菩提寺の地で老人福祉の事業を開始して、この9月で25周年を迎えるということを知り、改めて「光陰矢の如し」と思いました。

この事業の発端が、京都所在の世光教会のクリスチャン達の深い祈りから始まっていることは、皆さんよくご存知のことだと思います。この京都の団体が滋賀の地で老人福祉の事業を開始する、という申請書類を目にした滋賀県の担当課は「理事長 奈良 警夫 住所草津市…」とあるのを見て、早速、私に電話をかけてきて「あなたは、名義貸しをしてこんな書類を提出しているのではないか。

あなたは本当に理事長として責任を持って、この事業をやりきるつもりか」と問い質してきました。恐らく、当時名義貸しといった事例がいくつかあったからでしょう。以来22年間理事長を務め大きく飛躍してまいりました。決して名義貸しのできる仕事ではありませんでした。

25年前…ということ、ふと思い出したのは、最初の「職員採用」を行った時のことです。ひとりの若い女性が私の「あなたが老人福祉の仕事に携わりたいと願われたのには何か理由があるのですか」という問いかけに、次のように答えたことが強く印象に残っています。「私の祖父は、数か月前に亡くなったのですが、生前私はずっと祖父が嫌い、冷たい態度をとり続けてきました。しかし、亡くなった後、ずっとそのことの後悔に苦しんできました。近江ちいろば会で働くことを通して、祖父への償いをしたいのです。」と…

それから25年経ちました。彼女のような思いで介護の仕事に従事している人が近江ちいろば会を支えているのでしょうか。



元監事・評議員  
平野 正 氏

## 近江ちいろば会での恵まれた出会い

近江ちいろば会に関わらせていただいた約10年間に、多くの有能な方々とお会いする機会がありましたが、とりわけ次の方々の仕事への取り組みに、大きな感銘を受けました。

元理事、館長の故後宮俊夫氏は、軍人、終戦後の会社経営、独学での牧師、日本キリスト教団京都教区議長、教団の議長、担当する教会関連事業の推進、近江ちいろば会の設立と運営、敬和大学理事長など、常に波乱に満ちたものでしたが、多難をものともしない信念の強さをご生涯を通して持ち続けられました【毅然とした信念と実行の人】。

奈良（宮田）警夫さんは、近江ちいろば会の設立当初から理事長として、制度が変わってから評議員会長として現在まで、この25年間を無条件、無報酬で関わってこられました。新事業、新施設などを始めるに当たっては、正に身銭をきって、立地条件や周辺の状態などを実際に

調査、検討し、地元の方々や行政とも事前の調整もされました。近江ちいろば会の困難な時には、指導的な対応をされました【常に配慮に満ちた私利私欲の無い人】。

大企業の運営に直接関わっておられた森口茂さんは、時の理事長や館長からの要請に応じて、近江ちいろば会の運営のために転身され、福祉事業を心のこもった企業として位置づけ、状況の変化に的確に対応されています。転職を決断するにあたっては、さぞ悩まれたことと推測します。近江ちいろば会でのお仕事ぶりや、打ち合わせなどを通して、私の率直な感想は、「日本の優秀な企業には、森口さんのような有能な社員が居るんだ!!」ということ【優れた経営感覚を持ち実践する人】。

森口さんの要請に応じて転職され、監事を長く担われた武本勉さんによって、近江ちいろば会の運営基盤が整ったと思っています。経理上、運営上の各種の数字を吟味して、業務内容の問題点の指摘や、数値の妥当性や他の数値との関連分析などから、「日本を代表する企業には、武本さんのような優れた経理の専門家がいるんだ!!」と感じました【公正な状況分析と指導力に秀でた人】。

近江ちいろば会の皆様から老人福祉について多く学ばせていただいたお陰で、今度は自分が老人施設に入居する段になって、施設の選択や、入居後の対処など、非常に参考になることが多くあり、近江ちいろば会と関わられたことを心から感謝している現在です。



元本部統括責任者  
武本 勉 氏

## 記憶のままに

2003年に縁あって経理部門を見て欲しいと要請され、福祉業界は初めてで不安はありましたが、経理自体は万国共通と安易な思いで引き受けました。

業界用語、福祉サービスの種類の多さ、会計システム、決算書類等理解のないままのスタートでした。当時は事務作業が遅滞、混乱し、日常業務を処理するのが精一杯で決算ができず「理事会」「評議員会」もできない状態でした。

県の指導監査も毎年実施され指摘事項も「文書」「口頭」半端なく、早急な改善が求められていました。

まず、何よりも決算を確定し、次年度へのスタートと負の連鎖を断ち切るため、突貫工事で作業しました。私に、二人の女子社員が付きました。彼女たちは日常業務をこなした後、残業時間に応援してもらいました。相当無理強いました。文句も言わず笑顔での対応に甘えながらなんとか作成しました。——今でも「感謝、感謝」

資金も「公的借入」「銀行借入」以外に「個人借入」も多額で金利負担が収支を圧迫していました。組織も施設毎の縦割りで、施設間の共同・協調性に乏しく、総合力発揮には程遠い状態でした。

措置の時代から自由競争に移っても待ちの姿勢で、収入増

が最重点課題と感じても取り組みは遅かった様に感じました。

大きな転換期は2004年に現理事長森口茂氏が常務理事として経営全般を統括する事になりました。彼は従前より理事、監事を歴任し実情を熟知しており最適任者でありました。

まず①組織改革、縦割り組織に横串を通すべく、共通部門である「人事」「経理」「総務」を本部に一元化し、「採用・交流・育成」「資金集中」「渉外」等に取組みました。

②収入増を図るべく、営業活動に力を入れ、パンフレット作成、ケアマネ廻り、理事会、評議員会で紹介依頼等々。

③事業計画に注力し、明確な「スローガン」を掲げ方針を提示、具体的な活動計画は各施設が立案実施、経営サイクルの循環を定着させました。

営業活動強化に伴い入居率が低調であった「ケアハウス」「グループホーム」の入居者が増え、収支も大きく改善されました。

資金も回復、増加し、借入金返済による金利負担の軽減を図ると共に、戦略的に投資し、事業拠点を次々に設立、事業拡大と地域での雇用の創出、上級職員のポスト確保（人材育成）。業績も堅調で全体の業績UPに大きく貢献しています。

経営成果が目に見える形になると、従業員の意識も変わり、好転していったものと思います。

コロナ禍で特に「密」となる職場環境で大変な時期ですが一致団結し創業以来最大の難局を乗り越え、今後50年先、100年先も地域の福祉事業の基幹となっていきたいと思います。

入社当時、今日の盛況は考えられず理事長はじめ従業員皆様の弛まぬ努力と挑戦の賜と確信しています。25年の歴史の中に短期間ではありましたが共に働き、多くの方々と交流できた事はわたしの大きな財産になっています。



評議員・日本キリスト教団  
同支教会牧師  
望月 修治 氏

近江ちいば会が設立された1995年当時、私の中で、ケアハウス、デイサービスという福祉サービスへの理解はわずかなものに過ぎませんでした。何を行うのか、どのような役割を担うのか、具体的に思い描けていませんでした。2002年にグループホームぼだいじの開所式に出席し、見学させていただいた時の驚きを思い起こします。整えられた個室や配慮された設備が整えられていました。私の中にあった観念を遥かに超えた福祉の姿を見た思いでした。そしてホームで生活される方をかけがえのない存在としてお迎えするのだという思いが伝わってくるのを感じました。

妻の母が2015年から2018年の3年半、ケアハウスビスガこうせいでお世話になりました。入所者の家族としてケアハウスのスタッフの皆さんに、義母ともども支えていた

だきました。生活されている皆さんのいろいろな日常に、寄り添って声をかけ、ケアプランを丁寧に作って向き合ってください。スタッフお一人お一人のお働きにどれだけ助けられていることかと思ひ続けました。

その中で身にしみて思ったことがあります。自分はひとりでは生きることが出来てきたのではないということです。自立が大事だと人はどこかで思っています。そう出来ていない自分を責める時もあります。けれどそれは誤った理解です。「自立」とはだれにも依存していない状態ではなくて、interdependence、支え合い、頼り合うというあり方のことです。ふだんは社会の仕組み（ケアのシステム）を使ってあまり人に頼らずに生きていられても、いざ病気とか事故とか被災などで、自分が人の支えなしでは生きられなくなったときに、他者との支え合いのネットワークをいつでも使える用意ができていたということが「自立」していることなのだと思得るのです。

近江ちいば会の25年は、私たちが「助けて」と思った時に、それを受け止め支えるネットワークとしての役割を担い、支えてほしいと願う人と家族に寄り添い、受け入れ、共に歩み続けて来てくださった年月であり、時間です。義母がケアハウスで生活させていただいた家族にとって、それは本当に深い安堵であり、支えでした。

## 立岡 めいさん 95歳

ケアハウス入居 25年

滋賀県で生まれ、昭和30年代の若い時は東京で編み物の専門学校に通い、教室の講師となり全国を指導して回っていた華やかな時代がありました。病気をして滋賀県に戻り生活をしていましたが、ある時映画の中で自分の身体を医学に生かすことができる献体という制度を知り、滋賀医科大学しゃくなげ会に申し込むことにしました。そこで、お墓の奉仕を熱心にされていた鈴木儀平さんにお会いし、滋賀県甲西町（現湖南市）に新しくケアハウスができるとお聞きして見学し申し込みました。申し込みが一番早くだったと記憶しています。当時入居されてこられるお方は、皆様お元気で独身で仕事をされていた方が多く才能ある方がたくさんおられました。車をお持ちの方が、毎週どこどこへ行こう、などとよく出かけたものです。ケアハウスに入居するまでは、生活に追われて忙しくしていましたが、入居してからは食事、お風呂の心配もなく人生で一番楽しい期間でした。

最近は歳をとり身体の衰えで外出はできませんが、ゆっくりと過ごさせていただいています。人生、最後よければすべて良しですね。ありがとうございます。これからもよろしく願いいたします。



## 後宮 松代氏（創業者の夫人） 90歳

1992年ごろだと思いますが、日本でも高齢化の問題が取り上げられてきていました。キリスト教会に来られていた高齢者の間にも、同居している若い夫婦との世代間ギャップによる微妙な問題も表面化していました。

後宮俊夫は、50年牧師をしていましたが、国がケアハウスという低所得でも入居できる施設の整備を行うことを知り、これから高齢者が安心して住まえる施設（ケアハウス）を建てる計画を考えました。教会や教区の皆様にお話ししても、最初はそんなお金どこにあるのかと、無理なことを言っていると相手にされませんでした。方々に土地を物色しに回り、又行政と相談を進めていくうちに周りの方々も次第に応援してくれるようになりました。

幸い湖南市菩提寺に素晴らしい土地が与えられ開発をすることができました。感謝なことに近隣に小学校の建設も始まったことによりその運搬道路も使用できました。地域の方々のご理解も菩提寺にお住いの鈴木儀平さんの知り合いということでスムーズに運びました。建設まで3年くらいかかっていますが、毎朝俊夫と私は聖書を読み讃美歌を歌い、祈りに祈る生活でした。名もない一牧師がこのような大きな御業を成し遂げることができたのは「神様のみこころ」以外にありません。そして私は要介護5で自分ではできることが少ないですが、法人のデイサービス、ヘルパー、訪問看護の皆様のおかげにより家で変わらず生活できています。感謝、感謝の毎日です。



# 勤続10年、20年表彰

## 勤続20年

中央デイサービスセンター しんあい 芦田 泰俊



創立25周年おめでとうございます。皆さまの日々の努力と活躍により、新たな節目を共に迎えることができ嬉しく思います。

私にとっても今年は勤続20年という節目の年です。改めて皆様との出会いに感謝したいと思います。

私が入職した当初は介護保険がスタートした時でした。あれから随分と環境やニーズも変わり、求められることもより専門的なことが多くなってきました。また、高齢化が進むにつれ、感情や人とのつな

がり、関係性など本質的なところがより大事になって、ケアの上で人間として精神的・感情的に寄り添うことが求められていることをつくづく感じます。

そのような中で、懸命に心を尽くしてケアや事業に取り組んでおられる（おられた）皆様のことを思い出し、私ももうひと踏ん張り頑張ろうと思っています。

最後になりましたが、ケアメンとして働ける喜びを保ちながら、楽しい事業運営をしてみたいと願っています。

どうぞ宜しくお願い致します。

## 勤続20年

ぼだいじホームヘルパーステーション 坂本 真由美



### 「ヘルパー一筋20年」

近江ちいろば会 創立25周年おめでとうございます。

この節目の年に私は勤続20年となりました。感謝の気持ちでいっ

ぱいです。

20年前に介護保険が始まった年の夏に、友人に誘われてヘルパー2級講座に通い、修了証をいただくと同時にヘルパー募集のチラシを見て面接を受けることにしました。そして清島所長に採用していただき、北橋所長の元でヘルパーとしての技術や心得の初歩を身に付けました。森口所長からサービス提供責任者に任命され、竹内所長の元で契約や請求業務を担い、その他に夏祭りに踊りを披露したり、年始の飾り物を作成し、利用者さんに喜んでいただきました。

現在は羽賀所長の元でサービス提供責任者の仕事に加え、会計や物品の管理を任されて、コロナ禍の中、感染対策に気を配りながら、いつの間にかヘル

パーステーション一番の古株になっていました。

たくさんの利用者さんや職員さんとの出会いと別れの中で、私は喜怒哀楽が抑えられないのが欠点ですが、一緒に笑ったり、泣いたり、怒ったりしながらの20年でした。

ここまでヘルパー一筋で働いてこられたのは、「ヘルパーの仕事が好きだから」としか言いようがありません。

決して楽しいことばかりじゃないのに、時間に追われ体力的にも精神的にもきつい仕事なのに、それでも生活や体調に不安を抱えながらも一生懸命在宅生活を続けられている利用者さんとそのご家族の力になりたい。

何年経っても技術や情報共有に試行錯誤し、コロナ対策に悩まされながらも、同僚ヘルパーさん達とワチャワチャしながら、「しなやかにしたたかに」ヘルパーを続けて行きます。

徐々にお局化していく私ですが、今後もよろしくお願ひ致します。



勤続 20 年

ぼだいじディサービスセンターいこい 國丸 清美



近江ちいろば会 25 周年おめでとうございます。

25 周年の節目の年に在職できていることを大変光栄に思います。

『一隅を照らす』最近、手に取った書物の中で、この言葉に出会い

ました。

「自分が置かれている境遇でベストを尽くし、役

割や責任を果たすことで自身が輝き、更に世の中全体も良き方へ向う」とのメッセージだそうです。

世界がコロナ禍にある今、これまでの価値観の変化を余儀なくされ不安になりがちですが、心が迷った時は基本に戻り、職場でも私生活でも自己の存在の意義を見出せるよう、これからも頑張りたいと思います。

勤続 20 年

法人本部 坂口 敦美

20 年前の 2000 年 4 月に介護保険制度がスタートし、その月に私は入職しました。ホームヘルパー 2 級（現初任者研修）の実習先が、近江ちいろば会だったのがご縁でした。以来ずっと、介護保険事務を担当し続けています。

今、「続けています」と書きましたが、正確には「おかげさまで続けることが叶っています」というのが本当です。自分の生活があり置かれている状況も変わる中、それを受入れ、経験を活かして勤め続けられるよう一緒に考えてくださる法人だったからこそ

と、感謝しているというのが正直な気持ちです。

入職以来ずっと、私はパートのおばちゃんです。ここは、働き方は違ってても立場は違ってても、同じ職員として仲間として、見下すことなく見下されることなく働くことができる、20 年間で振り返り、いい職場に恵まれたなあ〜っと、しみじみと感じています。

5 年後の勤続 25 周年も、その次も胸を張って迎えられるよう、これからも頑張ります。

勤続 20 年

ぼだいじ居宅介護支援事業所 奥野 恭子

近江ちいろば会、創立 25 周年、本当におめでとうございます。

あっという間の 20 年でした。

毎朝子供の登園時にデイサービスの送迎車を見かけたのが、ちいろばと私の出会いだったと記憶しています。

10 年前には義母が乗ったデイサービスの送迎車を見送り、出勤。ちいろばの皆さまがいつも寄り添ってくださり、的確なアドバイスにより何とか介護者としての期間も乗り切る事が出来たと感謝しています。

最近、自分が要介護者になったら・・・と考えます。

私がどの事業所の利用者になっても、喫茶ひまわりには連れて行ってくださいね。そして私の目がお隣さんのケーキを狙っていたら「一人一つですよ」と優しく諭してください。

外食レクリエーションにも参加します。たくさん注文しそうだったら「ここは高いですよ」とこっそりささやいてください。

水口グループホームからお城へは徒歩で行けますか？一緒に散歩して下さい。今から足を鍛えておきます。

どんな出会いがあるかと、今からちょっと楽しみです。

20 年間ありがとうございました。これからも（もう少し）よろしく願いいたします。

最後に・・・自由な私をいつもあたたかく見守ってくれるケアマネジャーの皆さん、そして私に関わってくださった全てのケアマネジャーの皆さんに、感謝します。

勤続 10 年

ぼだいじデイサービスセンター いこい 廣本 由里子



ちいろば会に入職し勤続 10 年を迎える事ができました。今は育児中ですが、グループホームぼだいじで 5 年、デイサービスいこいに異動して 5 年目になりました。

グループホームでの仕事は初めてのことが多く、何事にも時間がかかったように思います。できるだけ薬に頼らないケアは認知症の症状が強くなる方が多く、どのように対応していいのかわることが多くありました。

利用者さんとの関係づくりにも時間がかかりましたが、得意とされる事や好きな事を教えてもらったりし共に過ごす事で、少しずつ距離が縮められたかなと思います。自分本位だったかもしれませんが、

今でも利用者さんとできる事を考えるのは、仕事をする上での楽しみにも繋がっています。

デイサービスで勤める中で感じる事として、出来にくくなってきた事が増える事で役割がなくなり、その結果として自信を失くされている方が多い様に感じています。症状や個性は様々で難しい事も多くありますが、出来る事を一緒に見つけ、前向きに過ごすきっかけ作りができるといいなと思っています。

最後になってしまいましたが、周りの皆さんに助けていただきながら 10 年という節目を迎えることができました。

本当にありがとうございます。これからも頑張っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願い致します。

勤続 10 年

小規模多機能型居宅介護事業所 ぼだいじみんなの家 鵜飼 由美子



近江ちいろば会創立 25 周年、おめでとうございます。

「心からの笑顔以外に良い介護はない。」4 年前に受講した研修で、「認知症の人と家族の会」の代表が言われたこの言葉。この仕事を続け、様々な学びがある中で、今でも一番心に残っている言葉です。

これまでケアワーカーや相談員として、デイサービス虹、しんあい、るんるんクラブ、高齢者支援センター、デイサービスみなくちみんなの家と様々な

事業所に所属し、そこでできる自分なりの精一杯を、と思い 10 年間働いてきました。たくさんの出会いがあり、たくさんの経験ができたことに感謝しています。

次の 10 年は新しいことに挑戦したいという思いがあり、今年の 6 月より、ぼだいじみんなの家のケアマネジャーとして働かせていただいています。目まぐるしい毎日ですが、常に学びの姿勢を忘れずに、心からの笑顔をもって、目の前のご利用者様、ご家族様の思いに向き合っていきたいと思います。

これからもどうぞよろしくお願い致します。

勤続 10 年

ぼだいじデイサービスセンター いこい 佐藤 綾子



ヘルパーとして 9 年、デイサービスで 1 年。

振り返るとこの 10 年は長かったようで、あっという間でした。働き始めた頃は、介護の経験もなく仕事についていくのに必死で正直楽しいと思えず、長く働いていけるとは思っていなかったと思います。少しずつ慣れ始め、利用者さんとの関係性ができていくと、自然と楽しいと思えることが増えたり気持ちが変わっていききました。ヘルパーからデイサービスに異動の時には感謝のお手紙

やお言葉をいただき嬉しく、私でも役に立っていると実感できこの仕事を続けていて良かったと思えるようになりました。

私が 10 年を迎えられたのは、子供も小さくお休みをもらうことも多く迷惑をかけていたのにも関わらず、フォローしてくれたり「大丈夫」と励ましてくれ、色々と親身になってくれた上司や職員、利用者の方々等周りの方に恵まれていたおかげだと思っています。

これからも仕事を続けていて良かったと思えるように頑張っていきたいです。



感染症委員会の取り組み

# コロナから守るために

近江ちいろば会では、毎月感染症委員会を開催し、マニュアルに従い感染予防を行っています。感染源が入り込んだ場合被害を最小にする、利用者様への予防啓もうと予防対応を確実にい事業継続を可能にすることを旨として次のことを実施しています。

- ①施設の課題を集約し、感染対策の方針・計画を定め実践を推進する。
- ②決定事項や具体的対策を施設全体に周知するための窓口となる。
- ③施設における問題を把握し、問題意識を共有・解決する場となる。
- ④感染症が発生した場合、指揮の役割を担う。



## 管理者研修会 8月29日

コロナ禍の中ですが、管理者の孤立化を防ぐために 天晴れ介護サービス総合教育研究所の榊原宏昌先生をお招きして、研修会を行いました。

テーマは ①リスクマネジメント、②それぞれの悩みの解決、③自己成長のために  
の内容で終日、新型コロナウイルスの対策を万全に行いました。

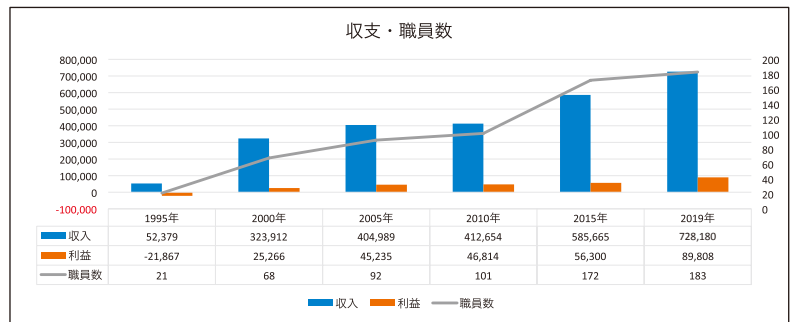
管理者は一人で悩むことが多いので、たくさんの同僚、共同者がいることで勇気が与えられたと思います。



## 経営推移

近江ちいろば会を支える経営の仕組み

- ① 方針⇒事業計画⇒月次決算検討⇒先々管理のPDCAサイクル循環
- ② 事業所別自主責任経営
- ③ 本部専門職員による事業所支援



## 令和元年度の決算報告

貸借対照表(全施設合計) 令和2年3月31日現在 (単位:円)

資産の部		負債の部	
流動資産	505,246,755	流動負債	68,439,516
固定資産	1,081,042,574	固定負債	120,623,035
(基本財産)	797,489,062	負債の部合計	189,062,551
(その他の固定資産)	283,553,512	純資産の部	
		基本金	92,980,024
		国庫補助金等特別積立金	370,486,553
		その他の積立金	59,382,976
		次期繰越活動増減差額	874,377,225
		(うち、当期活動増減差額)	89,807,563
		純資産の部合計	1,397,226,778
資産の部合計	1,586,289,329	負債及び純資産の部合計	1,586,289,329

事業活動計算書 平成31年4月1日～令和2年3月31日 (単位:円)

勘定科目	当年度決算額	勘定科目	当年度決算額
サービス活動		特別増減の部	
増減の部		特別収益計	0
サービス活動収益計	718,613,079	特別費用計	13,873
サービス活動費用計	634,272,403	特別増減差額	▲13,873
サービス活動増減差額	84,340,676	当期活動増減差額	89,807,563
サービス活動外収益計	9,567,103	前期繰越活動増減差額	780,573,971
サービス活動外費用計	4,086,343	当期未繰越活動増減差額	870,381,534
サービス活動外増減差額	5,480,760	繰越活動増減差額の部	
経常増減差額	89,821,436	基本金取崩額	0
●収益性		その他の積立金取崩額	53,995,691
*経常増減差額率:12.5%		その他の積立金積立額	50,000,000
*人件費比率:66.8%		次期繰越活動増減差額	874,377,225

### 財産目録

令和2年3月31日現在 (単位:円)

流動資産	505,246,755	流動負債	68,439,516
固定資産	1,081,042,574	固定負債	120,623,035
		差引純資産	1,397,226,778

